



Title	国際学校図書館協会（IASL）第45回東京大会開催
Author(s)	三浦, 太郎
Citation	司書 司書教諭課程年報, 17: 40-41
URL	http://hdl.handle.net/10291/18789
Rights	
Issue Date	2017-03-31
Text version	publisher
Type	Departmental Bulletin Paper
DOI	

<https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/>

国際学校図書館協会 (IASL) 第45回東京大会開催

司書課程・司書教諭課程
三浦太郎

2016年8月22～26日、明治大学駿河台キャンパス・リバティタワーを会場に標記大会が開かれた^{1) 2)}。大会テーマは「デジタル時代の学校図書館」であり、30か国から約400名（関係者を含む）が参加した。日本でのIASL大会開催は初めてである。

期間中は基調講演4件、ゲスト講演2件のほか、出展企業19社、研究発表65件を教えた（このうち、台風による航空機欠航の関係で、2件に辞退が生じた）。大会組織委員会（銭谷眞美委員長）が主催し、全国学校図書館協議会（全国SLA）が共催団体となった。明治大学図書館などが後援している。筆者は運営委員会副委員長として大会運営に関わった。

大会の運営を担う運営委員会には、委員長に森田盛行全国SLA理事長が就き、委員に堀川照代青山学院女子短期大学教授、平久江祐司筑波大学教授、二村健明星大学教授、須永和之國學院大学教授、村山功静岡大学教授、そして事務局に竹村和子全国SLA研究部長という体制であった。

IASLは1971年に創設された、世界規模で学校図書館活動の促進を目指す国際機関である。米ウェスタン・ミシガン大学（WMU）のジーン・ローリー女史らを中心に、ジャマイカのキングストンで発足し、翌年に第1回大会がロンドンで開かれた。その後も毎年、年次大会を開催し（1997年からは研究フォーラムも併催）、各国の学校図書館員や教員、教育部局関係者が参加して、学校図書館の効果的活用を議論している。

2015年6月に開かれたIASLマーストリヒト大会期間中にディリジット・シンIASL会長（当時）とお会いした際、“欧米だけではなく、とくに開発国の学校図書館関係者が数多く参加できるようにしたい”と話されていたのが印象的

であった。

今回の東京大会では、大会前日の8月21日に國學院大學でプレ会議が開かれ、ワークショップ（WS）2件が行われた。また、同日午後に行われたIASL理事会では、森田盛行運営委員長と筆者も出席し、本大会の準備状況を報告した。

初日（22日）はあいにくの荒天となったが、予定どおり、午前中にリバティタワー1階ホールで開会式が行われた。冒頭、國學院大學青葉雅楽会により雅楽・舞が披露されたのち、銭谷組織委員長、義家弘介文部科学副大臣、河村建夫学校図書館議員連盟会長らによるあいさつがあり、フラッグ・セレモニー、日本の教育制度に関するDVD紹介と進んだ。式に続いて、阿刀田高・山梨県立図書館長による基調講演が行われた。



▲フラッグ・セレモニーの様子

午後は15階と16階の3教室に会場を移し、研究発表（RP）9件、実践報告（PP）6件が行われた。1件あたりの発表時間は30分（質疑込み）で、以後も研究発表はすべて英語で行われた。夕方18時から23階岸本辰雄ホールでレセプションが開かれた。IASLの各賞授賞式と合わせて、三郷早稲田太鼓による演奏が行われ、実演の合間に参加者も太鼓を打ち鳴らして楽しんだ。



▲レセプション風景

23日には、元IFLA学校図書館部会長のダイアン・オバグ氏による基調講演を皮切りに、午前・午後合わせて、RP 9件、PP 6件、WS 2件、ポスター発表15件が行われた。ポスターのうち1件は、水戸第二高校の生徒たちによる発表であったが、瑞々しい若さが会場を盛り上げていた。また、午後には片岡剛夫氏のゲスト講演（主催TRC）や、落語家の立川志の春氏による英語落語も企画され、参加者の関心を強く惹きつけていた。



▲ポスター発表の様子

24日は終日、学校視察が実施され、参加者は全6コースに分かれて、公立・私立の学校図書館や国立国会図書館国際子ども図書館などを見学した。児童サービスの現状や、行政部局と学校図書館の連携、先進的な学校図書館実践などが提示され、とくに海外の参加者にとっては、日本の状況を体感する上で貴重な機会になったと思われる。

25日には、漫画家の里中満智子・大阪芸術大学教授による基調講演ののち、RP 5件、PP 8件、ポスター14件の発表が行われた。海外の学校図書館の近況を報告し合うウィンドウ・オ

ン・ザ・ワールドや、IASL総会も開かれた。総会では、すでに退任の意向を示していたシン会長に代わり、選挙の結果、ケイティ・マンク新会長が選出された。

この日の夜19時から、錦糸町にある東武ホテルレバント東京に会場を移し、公式晩餐会（ガラ・パーティ）が開かれた。花柳流の花柳基はるな・基紫瑞両氏による日本舞踊にはじまり、グランド・オークションでは、事前に参加者の持ち寄った品から厳選された10点が、競売の末落札された（会期中のサイレント・オークションと合わせ、寄附金は総額約3,600ドルに上った）。会の終盤、法政大学鳳遙恋によるよさこいが始まると、参加者も一緒にリズムに合わせて踊り、会場は大いに盛り上がりを見せた。

最終日の26日には、WS 3件が行われたのち、近刊書『学校と図書館でまなぶインターネット活用法』（JLA, 2016）の著者であるジェームズ・ヘリング氏による基調講演が行われた。閉会式では、2017年大会の開催地であるカリフォルニアの紹介や、IFLA旗の引き継ぎがあり、5日間の大会に幕を下ろした。

会期中、会場校として、国内外の参加者にご不便をおかけした点多々あったと思われるが、今後に向けた反省としていきたい。

IASL名誉会員の長倉美恵子氏からは、念願であったIASL大会の日本開催を実現できたことを感謝する旨、お言葉を頂戴した。本大会の開催には、これまでの先生方の思いが込められていることを、改めて襟を正す思いで受け止めた次第である。

ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。また、裏方として運営を支えてくださった各委員会の皆さま、ボランティアの方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

注

- 1) 長倉美恵子「国際化へと始動した日本の学校図書館—国際学校図書館協会とその東京大会」『カレントアウェアネス』No.330, 2016.12.20. [http://current.ndl.go.jp/ca1886] (最終アクセス日: 2017-01-13)
- 2) 三浦太郎「学校図書館の世界大会：国際学校図書館協会（IASL）第44回年次大会終了」『図書館雑誌』Vol.109, No.8, 2015, p.481-482.